

愛知県生涯学習推進センター情報誌

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/shogai/llcenter/>

編集・発行/愛知県生涯学習推進センター（愛知県教育委員会生涯学習課）

〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号（愛知県東大手庁舎2階） TEL 052-961-5333 FAX 052-961-0232



郷土芸能を伝承し、

「時」をつなぐ！

～ ばしょう踊 保存会（一宮市）～

伝統的な“ばしょう踊”を広く伝えるため、日頃の活動に加え、小学校などにおいて普及活動を行っています。

時をつなぎ、人をつなぐ！

盆踊りや市民総踊り、さらには古来より伝わる郷土芸能など、地域に根ざした“踊り”は、地元の人々の熱い思いに支えられています。“踊り”を通して「時」と「人」をつなぎ、地域を盛り立てる活動をご紹介します。

“魂の舞”で「人」をつなぐ！

～ 魁（刈谷市）～

さまざまな世代が一致団結して、魂を込めた熱い力で踊り、地元“刈谷”を盛りあげています。



INDEX 【目次】

● 特集「時をつなぎ、人をつなぐ ～踊りを支え、地域を盛り立てる！～」・・・ 1

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| ● 講座・講習会・イベント情報 …… 4 | ● インタビュー「この人に聞く」 …… 13 |
| ● ネットワーク機関紹介 …… 14 | ● 生涯学習ボランティア支援センターだより …… 15 |
| ● 生涯学習推進センターだより …… 17 | ● 「学びネットあいち」体験レポート …… 19 |



教育委員会

時をつなぎ、人をつなぐ！～踊りを支え、地域を盛り立てる～

古来よりさまざまな場面において、人々は踊りを通じて、思いを1つにしてきました。地域に伝わる郷土芸能を次世代に伝承することで、踊りは「時をつなぎ」役割を担っています。また、各地のお祭りやイベントなどで、盆踊りや市民総踊りが開催されています。地域が一つになって共に踊ることで、踊りは「人をつなぎ」役割をも担っています。

今回は、踊りで地域を盛り立てる2つの活動を通して、地域に根ざした踊りに対する思いをご紹介します。



時をつなぎ！

ばしょう踊保存会

代表 小澤良信さん



△道具にも心を込めて！

＜ばしょう踊とは＞

「ばしょう踊」は一宮市に伝わる民俗芸能で、愛知県の無形民俗文化財となっています。従来、干ばつの際に雨乞踊りとして踊られました。踊りは4人の武将と8人の鉦擦りで構成され、唄い手、笛吹きがこれに加わります。武将は約3メートルの竹を12（12ヶ月を示す）に割き、それに1年の日数分の色紙を付け、中央に御幣を立てた芭蕉と呼ばれる指物状のものを背負います。色紙は、雨乞祈願のときは白、お礼のときは緑、金、赤、銀、紫紺の5色と決まっています。唄には「雨乞いかけ唄」「豊年踊りの唄」「ひねり踊り唄」などがあります。

＜次世代に残さなくては！＞

ばしょう踊の創始年代については不明ですが、昭和16年を最後に雨乞としては踊らなくなりました。昭和29年に、青年団の中で「ばしょう踊を残さなければ！」という志気が高まり、当時の長老から学んだことが保存会の始まりでした。

今では雨乞いのために踊ることはなくなりましたが、万博に招かれたり、「第17回全国みどりの愛護のつどい」において皇太子殿下の前で踊ったりと、踊りを披露させていただく機会も増えました。

最近では、この愛知県が誇る伝統的な踊りを次の世代に伝え、普及するために、小学校でもばしょう踊を教える活動をしています。こういった活動を通して、郷土芸能を私たちの力で末長く伝えていきたいと思っています。



△ 北方小学校での指導の様子
(一宮市立北方小学校提供)

<保存会から、ばしょう踊への思いが届いています！>

- この郷土芸能を次世代に伝承していくのが我々の務めだと思います。そのためには地元の方々の理解、協力なしでは語れません。また、ばしょう踊をもっともっと多くの方々に知ってもらい、参加してもらいたいと思います。私も体力が続く限りばしょうを背負い、太鼓を敲きたいと思います。
(高橋光司さん)
- 中学生から始め、今では大学生になりました。ばしょう踊と僕とをつなげているのは友達やら名誉やら、いろいろなものが重なってはいますが、まだ若い僕にとって貴重な体験のひとつであることに間違いはないのです。愛知万博で踊ったり、皇太子殿下の前で披露するなど、こんなことができる大学生はいないと思います。
(林 優さん)
- 幼稚園の頃、ばしょう踊と出会いました。小学校になり、バスケットを一生懸命やろうと思い、踊りをやめようと思いましたが、周りの先輩たちを見て、もう少しがんばって、自分より小さい子たちに踊りの楽しさを知ってもらいたいと思い今も頑張っています。あと半年近く、後悔しないように一生懸命がんばります。
(北方小学校6年 奥津春香さん)
- 小学校1年の時に始めましたが、最初は踊りが難しくてやめてしまいました。半年ぐらい過ぎて、もう一度やる気になり、何度も練習するうちにだんだん上達して踊ることが楽しくなってきました。私の祖父、父、姉も踊ったばしょう踊を私も踊りたいし、このばしょう踊がずっと続いていくといいなと思います。
(北方小学校5年 加藤まなみさん)

★ おすすめ情報 ★

- 県内では、ばしょう踊の他にも、地域の人々の思いに支えられ、次の世代へ伝承されている踊りやお祭りが多数あります。愛知県生涯学習情報システム「学びネットあいち」では、そのような国や県の指定無形民俗文化財を、動画で配信しています！
(ばしょう踊もご覧いただけます)。



<http://www.manabi.pref.aichi.jp/general/gaido/gaido-p/top.htm>



- 愛知県の伝統的なお祭りが各地で開催されています！
実際に参加して、地元の人やその地に根付く文化に触れてみませんか？

尾張津島天王祭の車楽舟行事	津島市・愛西市市江地区	7月第4土・日曜
綾渡の夜念仏と盆踊	豊田市足助町	8月10日・11日
尾張の虫送り行事	稲沢市祖父江町	7月上旬
進雄神社の奉納綱火	豊川市豊川西町	7月20日前後の金・土・日
坪崎の火鑽神事	豊田市旭町	7月下旬の土曜日
須成祭	海部郡蟹江町	8月第1土・日曜
田峯念仏踊	北設楽郡設楽町	8月14日～15日
南設楽のほうか	新城市大海・鳳来	8月14日～15日
垂本万燈	新城市鳳来	8月15日
信玄原の火おんどり	新城市	8月15日
水法の芝馬祭	一宮市	旧暦8月1日



お問合せは⇒文化財保護室（052-954-6782）



<踊りを通して地元“刈谷”をPR！>



△“魁”パワーで盛り上げます！

地元である刈谷市が市制 50 周年を迎えた際に、その記念イベントとして市民総おどりが開催されることとなりました。そのイベントに参加して、自分たちが盛り上がり、楽しむことはもとより、市のイベントを盛り上げよう、市の活性化の一助となればと思い、手に鳴子持って踊る鳴子踊りの団体『魁（さがけ）』を結成しました。踊りを通して、「人との出会い・交流」また「まちの活性化」のため、『笑顔』をモットーに活動しています。

また、参加するのみではなく、少しでもイベントへの参加団体を増やすため、市内外、さらには県外の各イベントに出かけて、「刈谷」をPRしながら踊ったり、さらには、夏のイベント会場の清掃活動を行ったりしています。踊りを披露するのみではなく、一緒に踊ったり、出会いや会話を楽しんでいます。

<踊りは、人と人を結びつける！>

私たちは踊りのプロではありませんので、自分たちで衣装、振り、曲を考え、試行錯誤し、準備からステージ披露までを行っています。メンバーは、幼稚園児から大人まで幅広く、また参加地域も刈谷市はもとより、知立市、安城市などからも参加いただき、現在約 50 名ほどになっています。練習の休憩時間には学生同士勉強を教えあったり、主婦同士いろんな情報交換、また練習以外では食事会などをしてお互いの交流をしています。

祭りやイベントに参加する以上は、いかに自分たちが楽しむか、またそれを見た観客がいかに楽しめるか、さらには昨年まで観客だった人が今年は参加するようになるかを考えながら活動をしています。自分たちが最高の笑顔で思いっきりはじけて踊り、観客が自然に笑顔となるよう練習に励んでいます。私たちの踊りを見て、一人でも多くの人と人をつなぐことができるよう、活動していきたいと思っています。



△お客さんも巻き込んで踊ります！



今年の夏は、各地のお祭りやイベントに参加し、踊りの輪の中に思い切って飛び込んでみてはいかがでしょうか。そして、“踊り”を支える地域の人たちの熱い思いを、あなた自身の肌で感じてください！

この人に聞く！

そろばんから生まれる“交流” 活力の源は、ここにあり！



生涯学習に関する様々な活動をしてみえる方にお話を伺い、その方の信念や活動の源に迫ります。

今回は、“そろばんの伝道師”長谷川満晴さんにお話を伺いました。

ー 多方面にわたる活動の中でも、特にそろばんの普及活動を熱心にされてみえますが、活動のきっかけについて教えてください。

長谷川さん（以下敬称略） 中高年になると減少する脳細胞が、指の運動で復活するということを知り、そろばん塾を当時から開いていましたので「そろばんの指の動きが脳細胞の活性化に役立つのなら、地域にそろばんの良さを広めよう！」と思い、活動を始めました。区政委員を巻き込んで、地域社会にそろばんを中心とした生涯学習を広めるためにチラシを作り、そろばんの良さをPRしました。

そして、電卓・そろばん・暗算をあわせた「計算トライアスロン競技」や、フラッシュ暗算・電卓・そろばん・暗算をあわせた「計算メドレー技能競技」を開発し、年代を問わず、そろばんを楽しみ、そして技能を高める取組を進めています。

ー そろばんは年代を問わず楽しむことができ、さらに集中力の向上につながるといわれていますね。

長谷川 私のそろばん塾では、時間帯によっては1つの教室に、小学生と50代くらいの大人が一緒に学びます。面白いもので、小学生の子どもが「おじさん、すごいね」というと、大人はもっと頑張ろうと思うのです。年代を超えた者同士が声をかけあうことで、学習の励みになる。この雰囲気は学校にも家庭にもない、地域ならではの雰囲気ですね。時には、雑談を通じて、ことの善し悪しについて話をするなど、そろばんをきっかけにした地域のつながりの大切さを実感しています。

私自身も、私より年上の方が頑張っている姿を見ると「負けてはいられない！」という気持ちになりますしね。

ー 長谷川さんと生徒さんも、お互いに相乗効果で“パワーアップ”しているのですね。

長谷川 そうですね（笑）。年に1回、そろばんや電卓技能の競技会を開催しますが、全員が集中力を一気に高めて一斉に計算を始める、この時の緊張感溢れるパフォーマンスが私の活力の源です。そして、競技が終わった後の一人一人の満足そうな笑顔。この笑顔を見ると、活動していて良かったと思います。

ー 一人一人が達成感を感じられる。このことが最も大切なのですね。

長谷川 歌の歌詞にもありましたが、ナンバーワンよりオンリーワン。その人それぞれの個性を大事にしたいと思っています。大会というと、優勝者のみ褒め称えられる傾向がありますが、努力の過程はみな同じなのです。私は、一人一人が自分の努力を実感できる場を設けたい。それこそが生涯学習なのですから。

ー 長谷川さんにとってそろばんとは？

長谷川 生活の全てであり、人生そのものです。この活動は、自分自身が今までやってきたことを全て取り入れて、それを表現したものです。そして、そろばんを通して生まれる交流自体が自分自身の活動の原点なのです。

ー 最後に、メッセージをお願いします。

長谷川 生涯学習は門戸が広いので、自分の生活にあった学習を行ってください。そして、自分らしい生き方の中に、教養としてのすばらしいサプライズを見つけてください！

【長谷川満晴さん（中部魁盛学園理事長）】

NPO 法人あいち生涯学習インストラクターの会副理事長、学習サークル「葦の会」代表を務めるなど、多方面にわたる活動をしてみえます。また、横田基地の在日アメリカンスクールにおいて、日本文化の講師としてアメリカの子どもたちにそろばんを教えていらっしゃいます。

サルを学ぶことは自分を知ること！～日本モンキーセンター～

★今年 50 周年！★

日本モンキーセンターは、今年 10 月 17 日に創立 50 周年を迎えます。サル類の調査研究、野生ニホンザルの保護、動物園の運営などを通じ、サル類に関する学術研究や教育普及活動に寄与することを目的として 1956 年に設立されました。この 50 年の間、アフリカ探検隊、学術雑誌「PRIMATES」の発行、日本初のゴールデンライオンタマリンやキンシコウの来園など、話題に事欠きませんでした。



△ゴリラのタロウの周りには人だかりが絶えません！

★体験や発見で楽しく学ぶ★

今ではテレビやパソコンで生き生きとした野生動物の姿を目の当たりにできるようになりましたが、画面ではなく実体験で動物を感じることは、動物園ならではの体験です。そんなわくわくするような体験ができるよう、様々な工夫をしています。

去年オープンした「Wao ランド」では、マダガスカル島にのみ生息する希少なサル、ワオキツネザルが群れで生活しており、土日祝日は島の中のデッキに入って間近で観察することができます。

飼育係の手作りイベントも人気です。毎週日曜日に公演している紙芝居は全て飼育係の自作自演。個性あるイラストや語り口をお楽しみ下さい。神出鬼没のシークレットガイドでは、赤ちゃんサルの紹介や食べ方観察など、とっておきの話題を用意しています。

★生涯学習の場として★

私たちヒトはサル的一种です。サルを学ぶことは自分を知ること——。

春から始まったモンキーカレッジを始めとして、モンキーセンターで学んでいただく機会をたくさん設けました。これからの日本モンキーセンターにぜひご期待ください！

～イベント紹介～

●特別展「マングローブと生き物たち」

(9/3(日)まで)

テッポウウオの水鉄砲に歓声があがります(右写真)。



●講演会「サルに学ぶ子育て」

10/14(土)に「ウィルあいち」(名古屋市)にて講演会を開催予定です。まだ募集は始まっていませんが、ぜひご参加ください。

学芸員がお話する団体向けレクチャーも変わらぬ人気です。来園をお待ちしています！



詳細は・・・

<http://www.meitetsu.co.jp/japan-monkeycentre/>

「ネットワーク機関」とは生涯学習情報を「学びネットあいち」に提供して下さる生涯学習関連機関・団体で、随時募集しています。
詳しくは愛知県生涯学習推進センター(電話 052-961-5333)にお問合せいただくか、ホームページ(<http://www.manabi.pref.aichi.jp/>)をご覧ください。

生涯学習 “ボラセン” だより



みなさんの学習活動を支援するため、様々な機会に得た知識・技能や経験を他の方々の学習に生かす活動を行う方や団体に呼びかけ、「生涯学習支援ボランティアバンク」を設置しています。ボランティアバンクに登録していただいている方と関連するグループ・団体を実際に訪問し、活動する様子をみなさまに紹介します！

自然の素晴らしさ、みんなに感じてほしい！



「天白川で楽しみ隊」で活躍する白上さん。彼は、生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座の修了生で、その後ボランティアバンクに登録していただいています。「天白川で楽しみ隊」の活動の他、不登校児のために居場所を作ったり、日進市の体験・ボランティア活動相談員等として活躍されています。

4月下旬、日進市役所のすぐ北側を流れる天白川で、白上さんの活動取材しました。「天白川で楽しみ隊」は、毎月第4日曜日に、参加者が自然観察、ウォーキング、ゴミ拾い、川遊びの4つのグループに分かれて、天白川の自然と触れ合い、それぞれ天白川を満喫します。今回は白上さんが隊員である「川遊び隊」に同行しました。

この日は、4月のテーマ「さあ！川に入ろう！春の魚釣り」にあわせて、手にタモやバケツを持った子どもたちが集まりました。川に入る場所は集合場所から少し川下です。移動中、対岸には菜の花が咲き誇っていました。川岸に着くや、みんなためらいもなく川に入っていき、真剣な様子で魚を採り始めました。スタッフが魚を採って来ると、子どもたちが集まって来て、魚の種類を熱心に聞いています。今日は川に魚が少なかったようで、見事に魚を採った子がいる一方、思うように魚が採れず、少し悲しそうな子もいましたが、一人一人がとても生き生きしていました。

帰りの移動中、「楽しみ隊」の活動や天白川の自然について様々な話を伺いました。川縁に生えている野



△白上さんが採った魚に興味津々の子どもたち

草や川に棲む魚の名前、それらの中には食べられるものが結構あること、活動中に川岸で天ぷらやピザにして食べる時もあること、そうした工夫で子どもたちが自然に関心を持ってくれること。また、この「のどかで素敵な」風景の中には、特定外来生物の問題があり、ゴミの投棄といった問題があること。白上さん達の活動を通して、環境について改めて考えさせられました。

★「天白川で楽しみ隊」の活動は・・・



<http://www.mb.ccnw.ne.jp/amijakan/tanoshimitai/entrance.htm> をご覧ください！

一人一人の成長の場に！



「豊川市市田青年団」を支援している早川さん。彼は、ボランティアリーダー養成講座の修了生で、その後ボランティアバンクに登録してくださっています。今回、ご紹介する青年団活動の他、まちづくりに関わるNPO等でも活動され、また愛知県教育委員会主催事業にも協力していただいています。

5月上旬、豊川市市田青年団を訪れました。早川さんが以前団長を務め、今はOBとして後輩にアドバイスをし、活動をサポートしている青年団です。市田青年団の活動は、毎週、学校の体育館を借りてバレーボールをしたり、地域の行事やイベントを主催したりしています。夏には大勢の子どもたちが参加する「子ども相撲」や「盆踊り大会」、秋には「敬老会」、冬には「サンタの夢急便」、また子どもたちのためにレクリエーション活動等も実施しています。

この日は、地域の子どもたちのためにレクリエーションを開催しました。後出しじゃんけんやサウンドゲームなど、工夫を凝らした楽しい遊びが次々でできます。進行役の団員は、以前参加していたレクリエーション活動を通じて身に付けた「技」を存分に発揮していきます。そのため、最初は戸惑い気味だった雰囲気も、どんどん和やかになってきて、最後にはかなり盛り上がっていました。一方、早川さんを始めとするOB達は、遊びの補助役に回ったり、飲み物等を用意したりして、黒子として活躍していました。



△場を盛り上げるため、司会進行の“腕”をみせます！

活動の合間に早川さんにお話を伺いました。「活動を通じて社会で通用する人に育って欲しい。そのため、OBとして、目上の人を敬い、立てる気持ちを忘れないように気を配ることもある」—この言葉には、OBとしての貫禄すら感じました。

今回の取材を経て、青年団とは、地域の異世代交流の架け橋となるだけでなく、青年自身の成長の場でもあると改めて実感しました。また、世間一般でイメージをする程堅苦しいものでもなく、気軽に参加できて、同世代同士が楽しめるものなので、今後もっとももっとたくさんの方の参加があれば良いなと思いました。



△ 交流コーナーでは、ボランティアに関する情報を得ることができます。

生涯学習ボランティア支援センターは、ボランティアリーダーの養成等を目指しています。ボランティアバンク登録者も、各地で活躍している団体への支援者となりボランティア活動を活性化する存在となっています。地域の行事にボランティアが参加することで血の通った行事になります。皆さんの元気を引き出す“生涯学習ボランティア支援センター”を期待してください！

★ お問い合わせは・・・ 052-961-5333へ

今年も始まりました！

平成18年度学校開放講座・地域開催講座のご案内

■内 容

(学校開放講座)専修・各種学校や県立学校のもつ教育機能を開放した、技術的、専門的な学習ができる講座です。

(地域開催講座)愛知県教育委員会と市町村教育委員会の共催により、高度で専門的な学習ができる講座です。

■受講資格 満15歳以上で、学習意欲のある方(中学生を除く)。

■受講料 無料。ただし、教材費等の実費は徴収します。

■申 込 み

(1)(学校開放講座)官製往復はがきで、希望される学校に直接申し込んでください。

(地域開催講座)官製往復はがきまたは電話、Eメールで、申込先に直接申し込んでください。

※官製往復はがきの記入例

- ・返信はがき裏面 学校開放講座の場合:氏名(ふりがな)・学校名・テーマ名
地域開催講座の場合:氏名(ふりがな)・講座番号・テーマ名
- ・往信はがき裏面 学校開放講座、地域開催講座の両方とも
学校開放講座または地域開催講座申込み・氏名(ふりがな)・住所・電話番号・年齢・性別・
職業(勤め人・自営業・学生・その他の区分だけで結構です)

※メールで申し込む場合は、上記必要事項及びメールアドレスを入力してください。

(2)申込多数の場合は抽選となります。

(3)申込み結果は、「当選」「定員外」の種別を返信用はがきまたはメールでお知らせします。

※なお、各講座の募集要項は、市町村教育委員会、県民生活プラザ、会場校などで配布しています。

学校開放講座

学校	講座名・日程	定員	会場・申込み先等
緑丘商業高等学校	グラフィックデザイン —画像処理入門— 11/7(火)、11/10(金)、11/14(火)、 11/17(金)、11/21(火)、11/28(火)	20名	＜会場・申込先＞ 愛知県立緑丘商業高等学校 〒463-8511 名古屋市守山区緑ヶ丘 1008 TEL 052-791-8226 ＜受付期間＞ 10月2日～10月20日 ＜教材費＞ 500円
一宮商業高等学校	パソコン入門 (Wordの利用・活用) 9/30(土)、10/7(土)、10/14(土) 10/21(土)、10/28(土)	20名	＜会場・申込先＞ 愛知県立一宮商業高等学校 〒491-0041 一宮市文京 2-1-7 TEL 0586-73-7191 ＜受付期間＞ 9月1日～9月15日 ＜教材費＞ 900円
佐屋高等学校	エンジョイ “グリーンライフ” 9/9(土)、9/23(祝)、10/21(土)、 12/2(土)、12/9(土)、12/16(土)	20名	＜会場・申込先＞ 愛知県立佐屋高等学校 〒496-0914 愛西市東条町高田 39 TEL 0567-31-0579 ＜受付期間＞ 7月3日～7月31日 ＜教材費＞各日1,000～2,000円(講座毎に集金)
半田農業高等学校	“半農で体験しよう”食と農 A 食品加工コース B 園芸コース 9/30(土)、10/7(土)、10/28(土)、 11/18(土)、12/9(土)、12/16(土)	各20名	＜会場・申込先＞ 愛知県立半田農業高等学校 〒475-0916 半田市柗町 1-1 TEL 0569-21-0247 ＜受付期間＞ 8月15日～8月31日 ＜教材費＞ Aコース 3,500円、Bコース 8,500円

地域開催講座

開設市町村 定員	テーマ・講師 会場・開催日等	申込方法・申込先・受付期間等
新城市	今、求められている親と子の絆を考える	■申込方法 往復はがき、電話 または Eメール ■申込先 新城市教育委員会生涯学習課 住所 〒441-1392 新城市字東入船 6-1 電話 0536-23-7653 Eメール shougaigakushu@city.shinshiro.lg.jp ■受付期間 A 7月10日(月)～ 8月11日(金) B 7月18日(火)～ 8月18日(金) ※応募者多数の場合、抽選
各講座 100名	■会場 新城文化会館小ホール TEL:0536-23-2122 ■開催日時及びテーマ A 8月26日(土) 守れ！子どものからだ一手にとってわかる食教育の重要性― 川崎医療福祉大学教授 小野 章史 B 9月 2日(土) 子どもの情緒的成長と親の関わり 愛知淑徳大学教授 古井 景 ■時間 14:00～16:00	
一色町	親が考えること 子に考えさせること	■申込方法 往復はがき または Eメール ■申込先 一色町公民館 住所 〒444-0423 幡豆郡一色町大字一色字東前新田8番地 電話 0563-72-3411 Eメール syougai@town.issiki.lg.jp ■受付期間 A・B講座とも 8月1日(火)～9月15日(金) ※応募者多数の場合、抽選 ※Eメール申込みの場合は、タイトルを「地域開催講座希望」と明記する
各講座 100名	■会場 一色町公民館 TEL:0563-72-3411 ■開催日及びテーマ A 9月 30日(土) 転んだら起きればいい 菩提山西居院住職 廣中 邦充 B 10月 7日(土) 親がかわれば 子どももかわる 塾教育学院エデュケーションライター 長田 百合子 ■時間 10:00～12:00	
東郷町	歌舞伎役者の襲名西東 南山大学教授 安田 文吉	■申込方法 往復はがき または Eメール ■申込先 東郷町教育委員会社会教育課 住所 〒470-0162 愛知郡東郷町春木北反田14番地 電話 0561-38-4111 Eメール tgo-syakyo@town.aichi-togo.lg.jp ■受付期間 8月2日(水)～8月25日(金) ※応募者多数の場合、抽選
60名	■会場 東郷町民会館 TEL:0561-38-4111 ■開催日 ① 9月 9日(土) ② 9月16日(土) ■時間 14:00～16:00	
三好町	デジタル家電の今後について ～2011年に何が起きるか～ 電波学園教育センター講師 犬飼 高士	■申込方法 往復はがき、FAX または Eメール ■申込先 三好町教育委員会社会教育課 住所 〒470-0295 西加茂郡三好町大字三好字小坂50 電話 0561-32-8025 FAX 0561-34-4379 Eメール society-edu@town.aichi-miyoshi.lg.jp ■受付期間 8月15日(火)～8月31日(木) ※応募者多数の場合、抽選
40名	■会場 三好町文化センターサンアート TEL:0561-32-2000 ■開催日 ① 9月16日(土) ② 12月23日(土) ■時間 13:30～15:30	
阿久比町	歴史講座 古代・中世の宗教と支配	■申込方法 往復はがき、電話、FAX または メール ■申込先 阿久比町教育委員会社会教育課 住所 〒470-2292 知多郡阿久比町大字卯坂字殿越50 電話 0569-48-1111(内260) Eメール shakyo@town.agui.lg.jp ■受付期間 9月1日(金)～9月15日(金) ※ 定員に満たない場合追加募集、多数の場合抽選 ※ 講師情報 A: 日本福祉大学副学長 福岡 猛志 B: 愛知県立大学教授 上川 通夫 C: 名古屋短期大学名誉教授 上村 喜久子 D: 同朋大学専任講師 安藤 弥 E: 日本福祉大学非常勤講師 斎藤 夏来
各講座 100名	■会場 阿久比町立中央公民館 TEL:0569-48-1111 ■開催日及びテーマ A 11月18日(土) 熱田・津島・天神・弘法信仰をめぐって―古代史からの展望― B 11月25日(土) 中世仏教の地域的展開―尾張・三河の歴史的個性― C 12月 2日(土) 中世熱田社と尾張 D 12月 9日(土) 知多半島真宗史の試み―三河と伊勢、尾張の間で― E 12月16日(土) 室町殿の肖像と賛 ■時間 14:00～16:00	
扶桑町	道を極めた人たち 日本福祉大学客員教授 杉山 邦博	■申込方法 往復はがき または Eメール ■申込先 扶桑町教育委員会生涯学習課 住所 〒480-0107 丹羽郡扶桑町大字高木字稲葉63 電話 0587-93-5200 Eメール gakushu_sc@town.fuso.lg.jp ■受付期間 9月11日(月)～9月25日(月) ※応募者多数の場合、抽選
100名	■会場 扶桑町中央公民館 TEL:0587-93-5200 ■開催日 ① 10月 7日(土) ② 10月14日(土) ■時間 14:00～15:30	



情報はホームページでも公開しています。

学校開放講座 <http://www.manabi.pref.aichi.jp/center/concours/gakkou.html>

地域開催講座 <http://www.manabi.pref.aichi.jp/center/concours/chiiki.html>

私らしく、始めよう！生涯学習

「生涯学習を始めたいけど、何をしたらいいかわからない！」そんなことはありませんか？

生涯学習情報システム「学びネットあいち」では、自分の学習目的に合わせて、講座などの情報を検索できる他、特に学習目的が決まっていなくても、自分の予定にあわせて講座情報を検索できる“イベントカレンダー”も充実しています。今回は、この“イベントカレンダー”を使って学びの世界に飛び込んでみました！



【短歌の世界にふれる！～蒲郡俊成短歌大会～】

ゴールデンウィーク直前の4月29日。「学びネットあいち」のイベントカレンダーで、「蒲郡俊成の里短歌大会」を発見しました。藤原俊成といえば、千載和歌集の選者として有名で、その子定家もまた、新古今和歌集の選者として知られています。平安時代の文学が好きだったので、この短歌大会に興味をわき、さっそく飛び入り参加してきました。

この「蒲郡俊成短歌大会」は、蒲郡開発の祖である藤原俊成公を偲び、短歌を通して全国に蒲郡を発信するために開催されており、今大会においては、全国から600近い応募があったそうです。

まずは、今大会の選者の1人である、島田修三先生（愛知淑徳大学教授）の記念講演。「男のうた 女のうた」と題して、近代文学において消えてしまった女の歌について、歴史的経緯も交えつつ解説をしていただきました。目の前の情景を写実的に表現する男の歌に対し、自分の気持ちを自在な言葉で表現する女の歌の特徴は、平安時代における男女の歌のやりとり realistically に表れていることが分かり、興味深い内容でした。

次に、応募作品の中から見事特選などを受賞した作品を、選者が一つ一つ批評していく「選者作品評」が始まりました。歌の一言一句に作者独自の視点や思いが込められており、選者が様々な角度からその思いにアプローチすることで、歌の世界がどんどん広がっていく様子がとても面白かったです。また、選者のコメントを熱心にメモする参加者の姿が印象的でした。



△ 選者作品評の様子

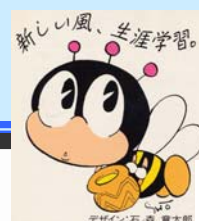
ほんの少しですが、短歌の世界を覗いてみて、思いがけず新鮮な驚きや発見に出会うことができました。

さあ、みなさんも「学びネットあいち」を使って、自分にあった学習を、自分らしく始めてみませんか？

（愛知県生涯学習推進センター）

生涯学習情報誌「まなびいあいち」は、生涯学習に取り組むみなさんと、愛知県生涯学習推進センターを結ぶ広報誌です。「こんなことを取り上げて欲しい！」「こんな情報がほしい！」「活動取材してほしい！」、どんなことでも結構です。ご意見等を下記までお寄せください。

〒460-0001 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号 愛知県生涯学習推進センター
ファクシミリ：052-961-0232 mail：info@manabi.pref.aichi.lg.jp



生涯学習のマスコット
“マナビイ”